

莊嚴浄土寺本堂・表門 2 棟

莊嚴浄土寺本堂・表門

しょうごんじょうどじほんどう・おもてもん

指定有形文化財

建造物

所有者

宗教法人 莊嚴浄土寺

所在地

大阪市住吉区帝塚山東 5-11-14

紹介



莊嚴浄土寺本堂



莊嚴浄土寺表門

莊嚴浄土寺は平安時代後期、応徳年間(11 世紀後半)に創建されたと伝えられる古刹であり、住吉大社とも密接な係わりをもつ。本堂は 18 世紀前半の建立とおもわれるが、平面は内陣を外陣・脇陣・後戸で囲う形式であり、市内に数少ない中世密教仏堂の建築様式を保つものである。江戸時代末期に大がかりな修理がおこなわれており、当初の形態が明確でないが、内陣と外陣・脇陣の境には建具が入り、閉鎖的な空間とする古式なものであった可能性がある。表門は江戸時代初期の堂々たる薬医門であり、この形式の門としては市内最古とおもわれる。